

事後評価様式(案)

S: 計画をはるかに上回った実績・成果を上げている
A: 計画を上回った実績・成果を上げている
B: 計画通りの実績・成果を上げている

第Ⅸ期計画
【重点研究観測】「南極から迫る地球システム変動」

サブテーマ1: 南極大気精密観測から探る全球大気システム

計 画	実 績・成 果	自己点検 【評価結果 S・A・B・C】	評価意見 【評価結果 S・A・B・C】
<p>第Ⅷ期重点研究観測サブテーマ1では、南極域の下層から超高層まで連続した大気を、大型大気レーダー(PANSYレーダー)をはじめとする観測機器で精密観測し、その変動のしくみを解明して温暖化等地球環境変化の予測に貢献することを目的とした。第Ⅷ期計画では、1,045本のアンテナで構成される南極初の大型大気レーダー(PANSYレーダー)の完成、及び安定した運用のための整備を進め、地上500kmに渡る対流圏から電離圏までの幅広い領域で、南極固有あるいは他地域と大きく異なる特性の大気現象の観測データが取得されており、先端的なりモートセンシングや分光観測と合わせた総合的な大気物理・化学観測を展開している。第Ⅸ期計画では、これを発展させ、現在の変動を精査・検出して短期から長期にわたる将来の気候変動等の地球環境変化を予測するために、地表から超高層大気までの広範囲な大気を一つのシステムである「全大気(Whole Atmosphere)」として捉え、地球環境変化の予測に不可欠な、多様な南極大気現象の物理化学過程を定量的に理解する観測の実施が必要である。第Ⅸ期計画においてフルシステム運用による本格連続観測を行うPANSYレーダーを駆使した、対流圏から電離圏までの広い高度領域の3次元風速やプラズマパラメータの高分解能・高精度観測を軸に、各種の電波・光学観測を組み合わせ、ネットワーク観測及び数値モデリング研究とも連携した、極域大気を多面的に捉える研究観測を実施する。さらに、第Ⅸ期計画期間には極端に太陽活動度の低いグランドミニマム期に突入する可能性があり、グランドミニマム期が全球規模の気候変動へ及ぼす影響を解明するため、極域超高層大気の変容を定量的に理解する観測を実施する。これらの観測の実施により、第Ⅸ期重点研究観測サブテーマ1「南極大気精密観測から探る全球大気システム」のもと、多面的で国際的な協同観測を展開するとともに、種々の大気大循環モデルとの連携により、南極上空を通じて全地球大気のシステムを明らかにする。</p>	<p>※実績・成果に加えて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染拡大によって受けた影響と具体的対応策、また、計画どおりに実施できた場合でも、そのために行った対応等について記載 ・中間評価結果を踏まえて、改善、対応した点等について記載 	<p style="text-align: center;">評価結果: ●</p> <p>【必要性】</p> <p>【有効性】</p> <p>【効率性】</p> <p>以上のことから、●と判断した。</p> <p>※評点SABCの根拠について、必ず上記の観点に記載ください。</p>	<p style="text-align: center;">評価結果: ●</p>

重点研究観測 サブテーマ①（国立極地研究所）

観測の概要

- ・意義
例) 地球規模での大気状態の把握や大気構造の解明
- ・主な観測項目、観測体制 など

国際的な意義・地球観測上の位置づけ

- ・国際的な枠組みにおける位置づけ
- ・その利用状況 など

- ・評価項目ごとに1枚で作成ください
- ・可能な限り一般的な平易な表現にすよう努めてください。
- ・絵や図を用いて、見やすくなるように心がけてください
- ・フレーム(枠線)の大きさは適宜変更してください

第IX期計画における主な成果・貢献等

- ・自己点検の概要
- ・第IX期計画における成果や貢献の実績(進捗状況等を確認しやすいよう数値等も用いて記載ください)
- ・今後強化すべきこと、もしくは、改善すべきことなど 等